

「継続は力なり」

横浜市 中学校 (国語) 教諭 (120 期 日本文学科)

私は中学生の時から国語の教師になりたいという夢を持ち続け、その夢の実現を目指して國學院大學に入学しました。私の合格の決め手は三つありました。

第一は、大学三年次から教職総合ゼミに参加したことです。ゼミが始まったばかりの頃は、志望理由もうまく言葉にできず、本当に教師になりたいのかと自分の気持ちを疑うこともありましたが、ゼミの先生のアドバイスにより、それまでの自分の経験をテーマごとにノートにまとめ、時間をかけて意義付けをしていきました。私の場合は「中学高校時代の部活動・塾講師・学習指導のボランティア・小学校でのアシスタントティーチャー・教育実習」と分け、それぞれについて「出来事・そのときの自分の行動・その結果・そこから学んだこと」の4項目を書き記しました。ただ事実を書くだけでなく、その経験を意義付けていくということが、最も重要であり最も困難でした。意義付けができると、なぜ教師になりたいのか、なぜ中学校なのか、なぜ国語なのかなど、自分の考えがどのような経験に基づいて形成されたのかが明確になり、小論文や面接においても自分の言葉で述べられるようになりました。

また、どのような経験も教師として必要であると実感し、大学の授業や大学三年次から参加していた学習指導のボランティア活動などにも、さらに一生懸命に取り組むことができました。

第二は「継続は力なり」という言葉のもと、地道に勉強し続けたことです。三月に行われた合宿セミナーに参加し、教職への思いがさらに高まりましたが、三月十一日に東日本大震災が起これ、先の見えない大きな不安に襲われました。先生方や共に勉強していた仲間と会う機会も無く、このような状況で自分が勉強していて良いのか悩み、自分の夢まで見失いそうになりました。そのような時でも、私が夢の実現のために努力することができたのは、自分の目指す教師像を常に心に抱いていたということ、そして、今までの努力してきた過程を目に見えるようにしていたということの二つがあったからです。

どのような時でも抱き続けていた「私の目指す教師像」の背景には、やはり教師を目指す動機が大きく影響しています。私が漠然と教師になりたいと思うようになったのは小学生の頃でしたが、中学校の時に担任の国語の先生と出会ったことがきっかけで、中学校の国語教師を目指すようになりました。その先生の授業で、言葉に興味をもつようになり、たくさんの言葉に触れる楽しさを味わったことで、国語の教師になりたいと強く思うようになりました。また、私自身が気付かなかった私の活躍できる役割を、いつも先生が与えてくださったことで、自分に自信をもつことができました。その経験から、私も一人ひとりの生徒が活躍できる役割を与えることで、生徒に自信と希望を与えていける教師になりたいと思うようになりました。自分に自信をもつことができたという経験を何度も振り返り、目指す教師像を常に心に抱いていたことで、目標に向かって進み続けることができました。

また、自分の経験をまとめた「自分史ノート」、今まで書き溜めてきた小論文やまとめのノートを見直すことは、今まで勉強してきた過程を確認することができ、自分の自信となりました。そして、いつ何をどのくらい勉強したのかということ記録していたことで、努力してきたことが目に見え、これまでの努力を無駄にはしないと心に言い聞かせることができ、夢を実現するためには、勉強し続けるしかないと自分を鼓舞して勉強に励みました。

第三の決め手は、二次対策講習でした。酷暑の中、先生方の熱いご指導のもとで鍛えられました。例えば模擬授業の準備では、数種類の教科書の目次をまとめ、その中から想定される授業のテーマを全て挙げ、何本も指導案を作成するなど、準備できることは全て行ったことが自信となりました。実際に試験当日には、予想していたテーマに似たテーマが出題され、自信をもって模擬授業を行うことができました。

合格の決め手として三点挙げましたが、私が目標に向かって進み続けることができたのは、やはり教職ゼミの仲間がいたからです。辛い時や嬉しい時を共有してきた仲間たちとは、共に励まし合い、高め合い、どのような壁も乗り越えてきました。仲間たちとのこの強い絆は、教師になってからも私の支えになると思います。

そして何よりも、ご指導してくださった先生方の一言一言が、私に自信と希望を与えてくださり、先生方に夢の実現を力強く支えていただきました。4月からは、新たなスタート地点に立ち、私が生徒たちに自信と希望を与えていけるよう、常に「継続は力なり」という言葉を掲げ、向上し続けます。